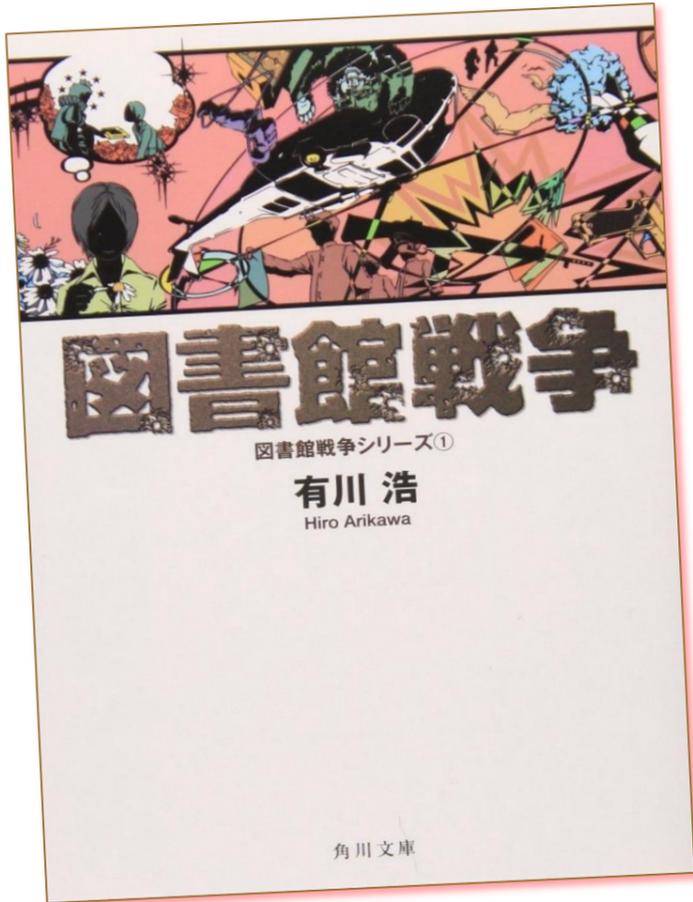


あなたに薦める『この一冊』7月

『図書館戦争』シリーズ

有川浩著 角川書店(現:KADOKAWA)

理科教諭 見片 啓祐
高校 2年4組 担任



私がこのゴールデンウィークに読んだのは、有川浩さんの「図書館戦争」シリーズです。日頃小説をあまり読まない私にとって、正直、1作目を読み終えるまでには、労力を要しました。何せ慣れない言葉が多い。「図書特殊部隊」とか「良化特務機関の示威行為」とか、いかつい漢字の言葉が多い。そのたびに何度も、巻頭の図式を頼っての読書になりました。しかし作品の中盤から、それらの言葉が多用される中で生きる様々なキャラクターが、所狭しと動き出す姿が目に見えようになりました。時は2019年、舞台は関東地方の図書館。平たく言えば社会の矛盾の中で仕事(というか任務)と人間関係に四苦八苦しながら生きる架空の女性の話なんですが、この架空の世界が作り物、と片付けられない現実感を持っています。

今の私たちが過ごしている社会も情報化社会。もし、その情報がどこかで誰かの手によって意図的に操作・制限されていたとしたら……なんていう話は「もし」という言葉をつけなくても、みなさんの周りでも頻繁に起こっていることですね。それらの状況に対して、どんな疑問を持ち、どんな向き合い方をしていくべきなのか、そんなことをふと考えるきっかけをくれる小説です。

この休みの間にシリーズ3作目までしかたどり着きませんでした。作品は続くようですので、興味をもたれた方はぜひ最後まで味わってください。私は当分最後まで読めそうにありませんので、また展開と感想を教えてください。

☆ 著者「有川浩」豆知識 ☆

本名、山本浩子。小説家。2010年10月19日、ベストセラー「図書館戦争」シリーズなどで知られる作家。1972年、高知県生まれ。2004年、第10回電撃ゲーム小説大賞(現・電撃小説大賞)受賞作「塩の街 wish on my precious」でデビュー。同作と自衛隊3部作を形成する「空中」「海の底」で評価を高め、06年から刊行された「図書館戦争」シリーズで人気を不動のものとした。本編4巻とスピンオフ2巻からなる同シリーズは累計125万部を超えた。他の作品に「レインツリーの国」「阪急電車」「三匹のおっさん」「植物図鑑」などがある。

その他本学図書館所蔵有川浩作品の紹介

・ アンマーとぼくら 講談社



休暇で沖縄に帰ってきたリョウは、親孝行のため「おかあさん」と3日間島内を観光する。1人目の「お母さん」はリョウが子どもの頃に亡くなり、再婚した父も逝ってしまった。観光を続けるうち、リョウは何かがおかしいことに気がつく。著者最新作の書き下ろし感動長編。

・ 旅猫レポート 講談社

ぼくはオス猫のナナ。ぼくを手放さなくてはならなくなったというサトルは、引き取り手をさがすため、銀色のワゴンに乗って旅に出る。ひとりと1匹が出会う、素敵な風景、なつかしい人々。2018年映画化。



★見片 啓祐(ミカタ ケイスケ)先生の紹介★

- *担当科目・クラス
化学(高2年1組、3~5組、7組)
- *星座 → やぎ座
- *趣味 → スポーツ観戦(ガンバ大阪と巨人の熱狂的ファン)
カフェ巡り(スタバのご当地マグカップやタンブラーも収集、もうすぐ制覇)
- *自分の中学・高校生活
勉強はそこそこ。部活動は本気で全国を目指して泳ぎまくっていました!
- *本校生の印象
自分からしっかり挨拶ができ、自分のことを話せる人が多い。
- *感動した本
『暗幕のゲルニカ』原田マハ【著】新潮社
- *読むことが望ましい本
『図書館戦争』有川浩【著】角川書店(現:KADOKAWA)

・ キケン KADOKAWA



ごく一般的な工科大学である成南電気工科大学の「機械制御研究部」。略称「機研“キケン”」のこのサークルは、犯罪スレスレの実験や破壊的行為の数々から「キケン=危険」とおそれられていた。理系男子たちが繰り広げる、事件だらけ&爆発的熱量の青春の日々。本書は、その黄金期の記録である!

編集後記：2018年映画『旅猫レポート』が、公開週の週末興行成績で実写映画No.1を獲得するなど、根強い人気の有川浩。最近では新刊を出していませんが、復活が待たれるところですね。読んだことのない方、また未読作品がある方は、この“待ち時間”のうちにチャレンジしてみてくださいませう?